

住民主体のまちづくり

No.17 2015. 4

編集発行：車尾地域づくりモデル事業 事務局

■ 地方が消える！人口減少の衝撃

世界でも例をみない勢いで少子高齢化と人口減少が進む日本。今、人口問題の研究グループの報告で全国 1,719 の市区町村のうち 896 の自治体が、人口減少によって町がなくなる"消滅可能性"があると言及されました。見えてきたのは、日本の人口減少が一気に加速するという"負のスパイラル現象"。これまで何度も語られてきた人口減少問題ですが、打つ手はないのか、どうすれば回避できるのでしょうか。

NHK の調査によると 2008 年から 2013 年の 5 年間に高齢者人口が減少した市町村が全国の 5 分の 1 に達したといえます。

つい先頃まで高齢化時代と言われましたが、その高齢者も居なくなりつつあります。深刻なのは介護と医療で、地方で唯一と言っていいほど成長産業だった部門が今、急速に減少に転じつつあります。地方の介護医療施設は高齢者の増加が見込めないため大挙して大都市、それも東京に押し寄せています。これに伴って地方で今まで確保できていた介護職員が地方で余ってしまったために、新規に参入する若い女性（20代から30代）の地方離れが進行しています。そのスピードは高齢者の減少速度より早いというから、地方からは高齢者も若い女性も消えつつあります。その結果子どもが消えて、公立学校は次々に閉鎖され、公民館や運動場はガラガラに空いて、商店街はシャッターを下ろしたままです。

通常市町村が、その機能を維持できる規模は人口 1 万人といわれ、この数を下回ってくると暮らし辛くなります。まず若者が去り、次に生活できなくなった中高年が去り、最後に残された高齢者は神様が連れ去ってしまいます。

今まで限界集落と言われていた場所は消滅集落になって、「夏草や 兵どもが 夢の跡」という状況です。結局、人間社会もある一定の限界を

超えると消滅するとも思えるが、現役で子育てや養育をしなければならない世代にとっては死活問題です。

「人口を増やせないまでも現状を維持するにはどうすればいいのか」が、今私たちに突き付けられた大きな課題になってきています。

■ 集団における「2・6・2の法則」

「2・6・2の法則」とは、人間が集団を構成すると、『優秀な人が2割、普通の人が6割、パッとしない人が2割』という構成になりやすいという法則です。例えば、集団で何らかの活動をする時、2割の人が、率先してリーダーシップを発揮し、6割の人が、そのリーダーシップに引っぱられて働き、2割の人が、ボーっとしている。という傾向があるといえます。次に、その2割のサボった人達を除いて、残りのメンバーだけで同様の活動をする時、やはり、メンバーの中の約2割の人が、新たにサボり始めます。逆に、サボった人ばかりを集めてグループを作り、活動をさせると、その中の約2割の人がリーダーシップを発揮し始め、6割の人は、それに引っぱられて動き始めるそうです。これは、優秀な人ばかりを集めてグループを作った場合も同様で、6割は普通に動き、2割はパッとしないといえます。私達は、自分がいる集団によって、様々な役割を演じうるということです。この法則を正しく理解して、地域づくりに、活用していくことも必要だと思えます。

みんなで考える、
明日の地域づくり。



自分たちのまちは 自分たちの力で